

歯学部を目指す人へ！

歯学は私学からはじまった!! 最新の口腔医療技術を学び 国民の健康を守る専門家を目指す歯学部

医学部

歯学部

薬学部

獣医学部

看護・保健系学部



櫻井 孝

日本私立歯科大学協会専務理事 歯学博士 神奈川歯科大学・短期大学学長

現代の歯科医療は大きな変貌を遂げ、全身の健康増進の観点から顎・顔面・口腔領域全般のスペシャリストとしての歯科医師が求められている。これからの歯科医学・歯科医療について日本私立歯科大学協会専務理事の櫻井孝先生にうかがった。

Q ■ 歯科医学教育において私立歯科大学が果たしている役割はどんなことですか

日本の近代歯科医学教育は私立から始まりました。明治39年(1906年) 歯科医師法(旧制)が制定され、日本で歯科医師の業務と名称の独占資格が得られました。同時に公立私立歯科医学校指定規則が施行され歯科医学教育も正式に発足されました。しかし、歯科は富国強兵には関わらないとして、国は歯科医学校の設立には動かず、明治40年(1907年)に私立が2校開校して以来、常に歯学は私学が先行してきました。現在でも、29ある歯学部のうち17校が私立であり、日本の歯科医師の75%は私立歯学部の出身です。

Q ■ 歯科医師の役割・重要性等はどんなところでですか

歯科医師は「歯」のみを診察する医師ではありません。顎・顔面・口腔(口の中)領域を中心に、食べる、話す、表情をつくるなど、私達の日常生活の基盤となる身体機能の維持に大きく貢献する仕事だと言えるでしょう。

臨床では、口腔がんなどの腫瘍や外傷などに対応する口腔外科、食べる・話すなどの機能を改善する補綴(はてつ)科やインプラント科、予防歯科、小児歯科、高齢者歯科、矯正歯科、歯科放射線科、歯科麻酔科、顎関節診療科、病理診断科さらには障害者歯科や摂食嚥下リハビリテーションなど多くの専門領域がありますし、再生医療のような研究領域や行政の場など広く活躍できる場面があります。歯学を学びながら、将来の活躍の場を定めていくことができます。

歯科医師は専門知識と技術に加え、深い知性と温かな人間性を兼ね備えることが望まれる、高度な専門職です。

東日本大震災、熊本地震及び能登半島地震などの大規模災害において、全国の私立歯科大学・歯学部の歯科医師や歯科衛生士・歯科技工士の皆さんは、災害発生後いち早く被災地に行き、被災された方々への歯科医療支援活動を行いました。

さらに、新型コロナワクチンの接種などについても、私立歯科大学・歯学部は、歯科医師等による接種を自校の学生・教職員のみならず、地域住民の方も対象に行い、感染拡大防止に積極的に協力しました。

現在の我が国は超高齢社会で、国民の概ね30%が65歳以上です。さらに高齢化は進んでいきます。食べたり飲んだりという機能の低下がフレイルや肺炎を発症する原因となっており、専門的口腔健康管理の必要性が国民の寿命や生活の質に直接的に影響を与える時代になっています。新しい知識と技術を持った歯科医師が必要不可欠なのです。

なお、いつでも高校生や高校の先生等がご覧になれるように、日本私立歯科大学協会のホームページには、歯科医学・歯科医療の役割・重要性や歯科界の未来は明るいこと等を盛り込んだ各種の資料を掲載しておりますので、是非、ご覧いただければと思います。

Q ■ カリキュラムはどのような内容ですか

現在の歯科医学教育は、概ね平成13年(2001年)に歯科医療人として不可欠な態度・知識・技能などの指針として示された教育ガイドラインの「歯学教

日本私立歯科大学協会とは？

日本私立歯科大学協会は、日本全国の私立歯科大学・歯学部が相集い昭和51年に設立しました。我が国の歯学教育及び歯学研究の振興を図る重要な機関として幅広い事業を行っています。
(<https://www.shikadaikyo.or.jp>)

日本私立歯科大学協会加盟校

北海道医療大学(歯)／岩手医科大学(歯)／奥羽大学(歯)／明海大学(歯)／東京歯科大学(歯)／昭和大学(令和7年度～昭和医科大学)(歯)／日本大学(歯)／日本大学(松戸歯)／日本歯科大学(生命歯)／日本歯科大学(新潟生命歯)／神奈川歯科大学(歯)／鶴見大学(歯)／松本歯科大学(歯)／朝日大学(歯)／愛知学院大学(歯)／大阪歯科大学(歯)／福岡歯科大学(口腔歯)

●意外と知らない「歯科医師」という職業(2分動画)



●来たれリケジョ、歯学部へ！(2分動画)



●日本私立歯科大学協会ホームページ



育モデルコアカリキュラム」と、さらに平成19年(2007年)に改訂された「歯科医学教授要綱」に則って実施されています。「モデルコアカリキュラム」は、必要に応じ改訂が行われ、直近では、令和4年(2022年)に「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の育成」をキャッチフレーズに改訂が行われました。各大学では、これを軸に大学独自の特色あるカリキュラムを加えた、新しいカリキュラムによる教育が、令和6年度(2024年度)入学生から行われています。

Q■どうすれば歯科医師になれますか

歯科医師は、顎・顔面・口腔領域を専門にしていますが、基本的には全身の理解が必要で、加えて、感染と免疫についても学んでいます。その上に、スチューデントデンティストの認定を受けて行う実習を含む専門領域の勉強が加わります。歯学部での6年間は、勉強する事が多く、あっという間の学生生活になるかもしれません。

また、歯科医師は国家資格ですから、卒業してから国(厚生労働省)が実施する歯科医師国家試験を受験し、合格しなければなりません。歯科医師国家試験合格者は、歯科医師法により「診療に従事しようとする歯科医師は、1年以上、歯学もしくは医学を履修する課程を置く大学に附属する病院(歯科医業を行わないものを除く)、または厚生労働大臣の指定する病院もしくは診療所において、臨床研修を受けなければならない」と定められています。

Q■女性の進出が目立っていますが

近年、歯科医療の現場での女性の活躍は目覚ましいものがあります。私立歯科大学・歯学部での女子学生の割合は約44%となっており、増加する傾向にあります。歯科医師の4人に1人は、女性歯科医師であり、29歳以下では2人に1人が女性となっています。世界的にもこの傾向がみられ、北ヨーロッパ諸国では女性歯科医の占める割合が90%以

上の国もあります。医科の一部の診療科と比較しても、患者さん1人当たりに診療時間を要する歯科医療は、一般的に計画診療や予約診療形態がとられていますから、既婚女性や育児中の女性にとっては、特定の時間に診療ができるという大きなメリットがあります。まさに歯科医師の仕事は女性にも適した職業と言えます。

Q■歯学部卒業後の進路はどうなっているのでしょうか

近年、開業歯科医の「過剰感」が指摘されてきていますが、開業歯科医師のおよそ2人に1人が60歳以上と高齢化が進み、ついに令和2年以降、歯科医師数が減少する状況となりました。これに伴い歯科診療所数も年々減少してきており、各方面から歯科医師養成人数を増やす必要があるとの指摘も多くなっています。

一方、現在の歯学部における教育では、従来と異なり、「むし歯以外」の顎・顔面・口腔の病気の予防からリハビリテーションまで、最先端の医療を学ぶことができます。例えば、成人の8割が罹患している歯周病は、成人が歯を失う最大の原因となっている歯ぐきの病気ですが、治療については歯科医師のケアが必要不可欠です。また、超高齢社会に突入した現在、歯科医師がご家庭や老人施設などに伺って診療を行う、いわゆる訪問歯科診療など、介護を要する方々への口腔ケアへの需要が急速に高まっています。口から食べることは、生命の維持・延長に必須な身体能力ですから、非常に重要な職務ですが、こうした領域の歯科医師は非常に不足しています。また、インプラント(人工歯根)や審美の領域についても専門医が充分ではありません。

このように歯科医療に対する社会的需要の範囲は広く深くなってきています。このことが高校生や社会等から理解され、多くの高校生等に歯学部を目指していただくことを期待しています。

医学部

歯学部

薬学部

獣医学部

看護・保健系学部